

第 716 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

日 時： 2026 年 9 月 12 日(土) 午後 2 時 00 分

開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

* 講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
1,000 円	小児科領域講習 1 単位 (iii 貼付用) 学術集会参加単位 (iv-B 貼付用)	* 単位を取得するためには教育講演 全ての聴講が必要 (60 分)



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：大石 公彦（東京慈恵会医科大学小児科主任教授）

主幹校：東京慈恵会医科大学小児科 担当：小林 正久

連絡先：jpestokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://jpeds-tokyo.com/>



第 716 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

《プログラム係 日本大学医学部小児科 岡橋 彩》

一般演題 (1) 14:00 – 14:40 座長 青木 亮二 (日本大学医学部附属板橋病院 放射線診断科)

1) 出生時に全身表皮剥離を呈し、早期に軽快した先天性魚鱗癬の 1 例

○宮澤 陽美、西袋 麻里亜、羽生 直史、内多 涼香、中山 俊宏、山田 舞、川崎 健太、代田 朋子、西端 みどり、奈良 昇乃助、奥野 博庸、山崎 崇志、山中 岳

(東京医科大学病院 小児科・思春期科)

日齢 0 の新生児。在胎 37 週 6 日で出生し、出生時から全身に表皮剥離を認め、当院 NICU に入院した。日齢 5 に皮膚生検を行った結果、表皮の角化亢進を認め、先天性魚鱗癬と診断した。皮膚以外の随伴症状は認めず、全身の保湿薬塗布と被覆を行い、日齢 12 に退院した。生後 1 か月時点で背部の表皮剥離以外の病変は消失し、その後も増悪なく経過している。早期に皮膚症状が軽快した先天性魚鱗癬の 1 例を経験したので、報告する。

2) 免疫性血小板減少症合併妊婦から出生した免疫グロブリン抵抗性新生児血小板減少症の 1 例

○富澤 路加、板橋 寿和、糸井 ひかる、菊地 貴大、杉原 諄哉、小林 光一、宮村 能子

(日本医科大学付属病院 小児科)

日齢 0 の新生児。在胎 37 週 4 日に免疫性血小板減少症合併妊婦から出生した。生後 2 日目の血小板は $5,000/\mu\text{L}$ で免疫グロブリン静注療法 (IVIg) 1g/kg を 2 回投与したが、血小板を維持できなかった。抗 HPA 抗体は陰性だった。プレドニゾロンを投与し、重篤な合併症なく血小板数は $100,000/\mu\text{L}$ まで増加した。IVIg 抵抗性の新生児血小板減少症に対しプレドニゾロンが有効であった 1 例を報告する。

3) 経鼻胃管が耳管へ迷入した早産児の 1 例

○原田 恋未、山田 早彌、関 純令、中川 愛、廣中 優、小林 亮太、稲毛 由佳、林 至恩、田邊 行敏、小林 正久、大石 公彦

(東京慈恵会医科大学附属病院 小児科)

日齢 8 の新生児。在胎 34 週で出生し、前医で経鼻胃管再挿入時に頭蓋方向への異常走行を認め、精査加療目的に当院へ搬送となった。頭部 CT 検査で胃管先端は中耳腔に位置しており、耳管への迷入が疑われた。抜去後、予防的抗菌薬投与を行い、明らかな出血や感染徴候は認められなかった。新生児の耳管は短く太く水平であり、胃管が耳管へ迷入した可能性がある。経鼻胃管の耳管への迷入は極めて稀であり、文献的考察を加え報告する。

4) 装飾フィルム入り風船 (コンフェッティバルーン) 内フィルム逆流による喉頭異物の学童の 1 例

○土元 香葉子^{1,2)}、菊池 奈々絵²⁾、庄司 健介¹⁾、植松 悟子²⁾

(¹⁾ 国立成育医療研究センター 教育研修センター、²⁾ 同 救急診療部)

7 歳男児。装飾フィルム入り風船を口で膨らませた際、フィルムが逆流し咽頭違和感が出現した。喘鳴やバイタルサイン異常はなかったが、喉頭ファイバーで声門近傍の喉頭後壁に付着するフィルムを認めた。深鎮静下に除去を試みたが、処置時には消失し、嚥下されたと考えた。本製品では学童期以降でも咽頭異物を生じる可能性があり、気道閉塞などの重大事故に至る危険がある。事故内容の周知や製品構造的予防が必要である。

5) 一過性骨髄異常増殖症の軽快後に、肺高血圧急性増悪をきたした 21 トリソミーの 1 例

○高橋 陽、朴 智加、鈴木 喬悟、杉江 学、石井 卓、高木 正稔

(東京科学大学病院 小児科)

1 か月男児。在胎 32 週で出生し、21 トリソミーに一過性骨髄異常増殖症 (TAM) を合併したが、プレドニゾロンで軽快した。日齢 45 に治療抵抗性の肺高血圧急性増悪を認め、日齢 47 に死亡した。肺病理所見では肺小動脈の中膜筋層肥厚を認め、内膜病変は目立たなかった。気管支肺異形成症の所見 (肺胞壁の線維芽細胞増生と浮腫を伴う肥厚) を認めた。TAM 後に低酸素血症が遷延する際は、肺高血圧急性増悪に注意が必要である。

6) Wilms 腫瘍の外来化学療法中に気管挿管を要した重症クループ症候群の 1 例

○金井 ひなた¹⁾、藤原 恵²⁾、草野 晋平²⁾、石橋 武士²⁾、富田 理²⁾、藤村 純也²⁾、東海林 宏道²⁾

(¹⁾ 順天堂大学医学部附属練馬病院 小児科、²⁾ 順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児科・思春期科)

2 歳男児。Wilms 腫瘍に対する外来化学療法中に発熱、犬吠様咳嗽が出現し近医を受診した。クループ症候群と診断され、低酸素血症を認め当院へ紹介となった。ステロイド静注とアドレナリン吸入後も改善せず、気管挿管を要した。高度の気道狭窄のため挿管困難であり、多診療科で対応した。後日パラインフルエンザウイルス 1 型感染が判明した。低強度の化学療法中에서도呼吸器感染症は重症化しうるため慎重に対応する必要がある。

7) 急性気管支炎治療後に発症したワクチン株麻疹の 1 例

○上原 健史、伊藤 愛香里、小笠原 亨、周戸 優作、戸張 公貴、中山 真紀子、齋藤 宏

(板橋中央総合病院 小児科)

1 歳女児。MR ワクチン接種 2 日後に急性気管支炎で入院し軽快退院したが、接種 8 日後に発熱、10 日後に発疹が出現した。気道症状や Koplik 斑は認めず、全身の紅斑性皮疹と下肢の癒合紅斑を認めた。麻疹 PCR・IgM・IgG 陽性で、遺伝子解析結果からワクチン株による感染と判明した。パラインフルエンザ 3 型も検出され、先行・併存感染による臨床像修飾の可能性が示唆された。感染対策上示唆に富む症例として報告する。

○指定発言 菅谷 明則 (すがやこどもクリニック)

8) 腰仙部皮膚陥凹として経過観察中に先天性皮膚洞を侵入門戸とした脊髄内膿瘍を発症した乳児の 1 例

○渡邊 夏実¹⁾、柳川 靖人¹⁾、山岡 達宏¹⁾、寺園 明²⁾、麻生 敬子¹⁾、高月 晋一¹⁾

(¹⁾ 東邦大学医療センター大森病院 小児科、²⁾ 同 脳神経外科)

6 か月女児。腰仙部 MRI で皮膚陥凹と診断されていた。発熱で受診し、先天性皮膚洞による脊髄内膿瘍と診断された。膀胱直腸障害を合併し、巨大膀胱を呈した。抗菌薬点滴と脊髄披裂修復術により改善した。先天性皮膚洞と皮膚陥凹は、皮膚所見のみでは鑑別が困難である。本症例では MRI でも鑑別が困難であった。先天性皮膚洞の約 60% は感染を機に診断され、皮膚陥凹例の不明熱では皮膚洞を侵入門戸とした感染を疑う必要がある。

感染症だより 15：35－15：50（講演：15分）

講師 高梨さやか（国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所
予防接種研究部）

共催セミナー 15：50－16：30（講演：40分）

「経鼻アドレナリン製剤ネフィー[®]－小児アナフィラキシー治療の新たな選択肢」

座長 大石 公彦（東京慈恵会医科大学小児科学講座）
講師 高橋 亨平（国立病院機構相模原病院 臨床研究センター
アレルギー性疾患研究部）

アナフィラキシー治療の第一選択はアドレナリン投与だが、自己注射薬は携帯率の低さや心理的障壁により投与の遅れが課題であった。2026年2月発売の経鼻アドレナリン製剤ネフィー[®]は、針を用いずに鼻粘膜からアドレナリンを投与可能であり、症状出現後の迅速な自己投与を促進する可能性がある。本講演では当院でのPhase 3試験を含むエビデンスをもとに、薬物動態・有効性・安全性と小児における処方の実際を解説する。

共催：アルフレッサ ファーマ株式会社

* * 休 憩 16：30－16：40 * *

教育講演 16：40－17：55（講演：60分＋質疑応答：5分）小児科領域講習 1単位

「小児・思春期の頭痛診療－子どもたちの未来を見据えて－」

座長 折津 友隆（おりつこどもクリニック）
講師 山中 岳（東京医科大学小児科・思春期学分野）

片頭痛は単なる痛みではない。発作への不安や活動制限を通じて学校生活にも影響を及ぼし、ときに不登校となる。一方で、適切な対応により学校生活を取り戻す子どもたちもいる。小児の片頭痛は成人と異なる特徴を有し、緊張型頭痛や起立性調節障害との鑑別も重要である。本講演では、私なりの小児・思春期の頭痛診療のポイントを解説するとともに、神経炎症を中心とした病態研究の進歩にも触れ、子どもたちの未来を見据えた頭痛診療について考えたい。

◆ 2026 年度 講話会予定（会場開催のみ） ◆

■ 講話会予定

講話会	日 程	会 場	備 考
第 717 回	2026 年 10 月 10 日（土）	アットビジネスセンター 八重洲通	※演題締切 2026 年 8 月 20 日
第 718 回	2026 年 12 月 12 日（土）		※演題締切 2026 年 9 月 20 日
第 719 回	2027 年 1 月 9 日（土）		※演題締切 2026 年 11 月 20 日
第 720 回	2027 年 2 月 13 日（土）		※演題締切 2026 年 12 月 20 日
第 721 回	2027 年 3 月 13 日（土）		※演題締切 2027 年 1 月 20 日

* 4, 5, 8, 11 月は休会

※申込演題が規定数を上回った場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承ください。
その場合事務局よりご連絡致します。

演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】 <https://jpeds-tokyo.com/>



■ 小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support : JPLS）を 2026 年度は年間 6 回の開催が予定されております。

取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位 iii 小児科領域講習 3 単位

開催日程	会 場	申込開始時期
2026 年 6 月 7 日（日）	東京慈恵会医科大学	締め切りました
2026 年 7 月 18 日（土）	慶應義塾大学	締め切りました
2026 年 9 月 5 日（土）	帝京大学	締め切りました
2026 年 12 月 6 日（日）	日本大学	2026 年 9 月 6 日（日）締切
2027 年 1 月 24 日（日）	東京大学	2026 年 9 月下旬 募集開始
2027 年 2 月 7 日（日）	国立成育医療研究センター	2026 年 10 月初旬 募集開始

募集人数：12 名 ※ 最少催行人数 8 名

申し込み先：日本小児科学会 HP ※詳細についても 小児科学会 HP にてご確認ください
https://www.jpeds.or.jp/modulesactivity/index.php?content_id=221

■ 第 51 回東日本小児科学会のご案内

会 長：獨協医科大学医学部小児科学 主任教授 白石秀明
大会テーマ：子どもを慈しみ育てる社会へ
日 程：令和 8 年 11 月 23 日（月・祝）
会 場：ホテルマイステイズ宇都宮（ハイブリッド開催）
U R L：<https://square.umin.ac.jp/ejps51/>
参加登録期間：2026 年 8 月 24 日（月）～ 11 月 23 日（月）※予定
参 加 費：医師・メディカルスタッフ・企業 8,000 円（不課税）
学生・初期研修医 無料



◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【2026 年会費納入について】

2024 年度より年会費が 8,000 円となっております。

2026 年度会費納入のお知らせを 2026 年 4 月 1 日以降メールおよびホームページにてご案内いたしました。2026 年度会費及び 2025 年度・2024 年度 会費未納の方は【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。

* 3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

* 会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

* 講話会当日、会場受付にて年会費をお支払いいただくことも可能です。お気軽にお声かけください。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。

学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認をお願いいたします。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

【主幹校（会長校）】 東京慈恵会医科大学小児科

【運営事務局】 合同会社新生児小児研究会

【主幹校／運営事務局 共通アドレス】

✉ jpstokyo-office@umin.ac.jp

【東京都地方会 HP】

<https://jpeds-tokyo.com/>

